

第83回東北地方交通審議会
船員部会 議事要録

平成27年 9月25日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会

第83回船員部会

日 時 平成27年9月25日(金) 15:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 長谷部部会長、高橋(真)部会長代理、佐々木委員、
船津委員

労働者委員 : 正路委員、鈴木委員、高橋(雅)委員

使用者委員 : 佐藤委員、鶴本委員(欠席)、湯村委員

運輸局 : 菅原海事振興部長(欠席)、村木海事振興部次長
峯田船員労働環境・海技資格課長
鈴木船員労政課長、佐々木労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

配付資料

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(平成27年7月分)
- 資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料4 新規求人・求職数(全国)
- 資料5 有効求人・求職数(全国)
- 資料6 有効求人倍率(東北管内)
- 資料7 有効求人倍率(全国)
- 資料8 船員の特定最低賃金の改正に係る意見聴取の公示
- 資料9 「めざせ!海技者セミナー in 仙台」開催結果概要
- 資料10 平成28年度海事局関係予算 概算要求概要
- 資料11 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【村木海事振興部次長】

〔第83回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは、議事に入りたいと思います。議事次第の議題の(1)管内の雇用等の状況につきまして、事務局の方からご報告をよろしくお願いします。

〔鈴木船員労政課長より資料1～7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

どうもありがとうございます。ご質問、ご意見等、ございますでしょうか。

全体としてあまり変化なしですか。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。7月分については、求人がちょっと増えています。求人が増えている割には求職がちょっと下がりぎみなので、そういう意味で有効求人倍率が単純計算で下がっているといったところです。

【長谷部部会長】

何か簡単に状況を見たがるんですけど、東北の復興景気の失速と、それからリフレ政策の効果なしでもって、全体的としてそれに引っ張られてだめになると、こう描きたくなるんですが、必ずしもそういうように直接にはならないですね。もっと漁業を取り巻く環境とか。

【鈴木船員労政課長】

そういう大きなところまではちょっと分からないですね。

【長谷部部会長】

分かりました。ということのようです。

【高橋(雅)労働者委員】

1ついいですか。

【長谷部部会長】

はい、高橋委員。

【高橋(雅)労働者委員】

求職の底びきの15名なんですけども、これ地域的にはどちらの方になるんですか。15名、結構いますので。

【鈴木船員労政課長】

資料1の5ページ目を見ていただいて、底びき、漁船の1つ目は底びきなんですけども、そこ見ていただくと、ここは有効求職なんですけども、多い数字というのが岩手と石巻で、岩手が7名、石巻6名、これは有効求職なので、新規求職とかぶってはいないんですけども、傾向的にはこの岩手、宮古、釜石地区ですね。それと

石巻地区の求職者が多いという傾向です。

【長谷部部会長】

よろしいですか。

【高橋（雅）労働者委員】

はい。

【長谷部部会長】

何かご意見等ありますか。

【湯村使用者委員】

さっきの求人の増加の理由として、当てはまるのかどうか分かりませんが、最近言われているのがマイナンバー制の導入に伴って年金の不正受給というのですかね、年金を受給しながら乗船しているという人が結構多いらしいんですね、話を聞くと。

そういう人たちが導入に伴って一斉に下船するんじゃないかという心配が今されています。地域の格差があるんでしょうけど、東北では恐らくそういう事例があまりないと思いますが、西日本の方では、そもそも船員の平均年齢が高く、60歳以上の方が非常に大きな割合で乗船しているという実態がありますから、そういう話も、実際あり得る話なのかなというように思いますけど…。

船主の方はそういう動きを察知して、求人の方に回っているのかなという感じを受けました。

【長谷部部会長】

職安の方のエントリーしてヒットさせるというシステムは、マイナンバー制というのは、番号打ち込む必要があるんですか。

【鈴木船員労政課長】

うちの方には、多分マイナンバーは影響してこないと思います。

いわゆる所得、収入の方で付ける番号なので、基本的には会社、事業者が給料を支払う時に、一人一人にいわゆるマイナンバーが割り当てられるので、それを全部打ち込むことで収入を把握して、適正な税金の徴収を行うためのシステムなので、うちの方の職安システムにマイナンバーは、いわゆるお金を払う、雇用保険料は払っていますけど、リンクさせないんじゃないかなと思います。

【長谷部部会長】

そういう人は別に、これに出てくる背景の話ですね、今のは。

【鈴木船員労政課長】

ただ、先ほど湯村委員が言われたように、会社として雇っている人の給料を払う場合には、来年1月からみんなマイナンバーをつけて給料明細が出てくる訳なので、そうすると、もしも年金を貰っていれば、年金の受給額と実際働いた収入の合算で正しい税の申告がされているかがはっきりするので、それが嫌で辞めていくということもないことのないのかな。

【湯村使用者委員】

不正受給になりますよね。

【鈴木労働者委員】

そもそも違法ですもんね。

【佐藤使用者委員】

今までは、確定申告で合算してやっているんだから、それに番号をつけるだけだ。

【鈴木船員労政課長】

ただ、マイナンバーにすると、自動的に全部国税にみんな行っちゃうので。

【佐藤使用者委員】

当分は多分財務省主導だから、所得の捕捉だけなんだよ。だから、年金事務所の年金、そっちの方とは、まだ全然統合されないの…。

【鈴木船員労政課長】

ただ、受給者の方は、そういう心配をされて辞めていく方も、もしかしたら…。

【湯村使用者委員】

そうですね。ちゃんとした会社組織のもとでちゃんとした経理、そういった給料なんかについても、ちゃんとしたやり方をやっているところが大半なんでしょうけど、中には零細といいますか、もうどんぶり勘定でこうやったり、所得税払わない…。

【佐藤使用者委員】

でも、そういうのはエラーとして残るんだね、どこの世の中でも…。

【湯村使用者委員】

そういうのが結構あるらしいという話ですけど、漁業者は9割以上が零細事業者と言われている業界ですので…。

【佐藤使用者委員】

そうゆう税きちんと払う訳ないんだから…。

【長谷部部会長】

何も申しませんが、色々そういうことがあって。

【佐藤使用者委員】

そういう懸念を持たないとだめだね、事業者も。

【長谷部部会長】

いずれ年金との連動ということにもなるでしょうから、そうしたがつている訳ですから。

そういうことで辞めていかれるのは、ちょっと問題がありますけど…。

【佐藤使用者委員】

船員保険の等級も年金と合算されたら大変だよな。船員保険料が高くなるもの。

【鈴木労働者委員】

それはないでしょう、幾ら何でも。

【高橋（雅）労働者委員】

でも、実際に給料と年金が合算されると税金かかりますからね、所得税とか。

【長谷部部会長】

長期的に見れば補正される話だとは思いますが、短期的には、そういう辞めていく人の原因にはなるんでしょうね。そういうことがあるということのを心にとめておけばよろしいでしょうか、湯村委員。

どうもありがとうございます。他にいかがですか、高橋委員。

【高橋（真）公益委員】

資料2の求人・求職の総計の年号が、26年が2つ、これ27年ですよ。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。失礼しました。3行目が27年ですね。

【長谷部部会長】

年度がかぶってしまったという話ですね。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。失礼しました。

【長谷部部会長】

修正していただいて、よろしく願いいたします。

それ以外ございますか、船津委員。

【船津公益委員】

資料6、7、有効求人倍率の東北と全国のグラフなんですが、東北の方はサンプル数が少ないからちょっと波が結構ありますが、全国の方は割と波が少ない、一定しているんですけども、この2年間位ずっと倍率が1倍位から2倍位にかけて上昇してきていたのが、2倍位で、安定ではないですけど、その辺も行ったり来たりしておりますが、この辺で上げ止まりした何か理由というのはあるんでしょうか。

【鈴木船員労政課長】

求人ですか。求人の方のマックスが今ある程度出ていると思うので、求職の方が、いわゆる働きたいという人の数がどんどん減ってきているので、その部分で求人倍率が今2倍なんですけども、求職者もここ1年位ずっと横ばい状態なので、結果として大体2倍のところまで落ちているのかなと…。

【船津公益委員】

この勢いを見ていると、何かずっと上がり調子でいくのかというところだったんですけど…。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。いわゆる高齢の船員さんが随時リタイアされていけば、どんどん人が減っているので、多分求人倍率はどんどん上がっていくんです。

求職者がどんどん減っていくんですけども、實際上、今極端な場合、70歳位でも求職票を出して、実際に就職されているという方もいるというところで、その求職の数が下げ止まりと言ったら変なんですけども、高齢者の方が働く意欲があることによって維持されている部分があると…。本来は、もっと求職者が減っていったら求人倍率ももっと2.5倍とかというような予測ではあったんですが、結果として、今現実はその辺でおさまっているという、いいのか悪いのかは、ちょっとどっちともとれないところなんですけども、高齢の方が頑張っておられるので、うまくこの辺で今つり合っているというか、2倍位で横ばいしているという状況なんですかね。

全国の数字は統計をとっていないんですけども、管内の求職者について、ちょっとざっくり年齢構成を見たところ、7月で80名の商船・漁船合わせて求職者があったんですけど、5歳刻みで見た時に、55歳から59歳まで18名、60歳以上が24名ということで、55歳以上の方で全体の52%超えなんですよ、いわゆる求職者のシェアが…。

なので、これを見ると、東北管内の状況が全国にそのままイコールではないんですけども、他管内を見ても、ある程度そういう高齢の求職者が相当数含まれているのかなということが考えられます。答えになっていませんけど、高齢者が多いということを知っていただければと思います。

【長谷部部会長】

長期的な構造要因というよりは、短期的な労働力供給側の方の供給過剰のようなものということですね。

【鈴木船員労政課長】

船の数自体はそんなに増えていないので、必要とする船員さんの数が急激に増えるということはないんですよ。

なので、あとの問題はそこに見合う船員の数確保できるかという問題なんです。もしも高齢の方がここで一気にリタイアして行くと、求人倍率が、もう2.5とか3に一気に上がっていくのではないかなと思います。

【長谷部部会長】

専ら、それは漁船、漁業の方が…。

【鈴木船員労政課長】

どちらかというとならば商船の方が厳しい。

【長谷部部会長】

商船ですか。

【鈴木船員労政課長】

船員不足が一番厳しいのは漁船、商船どっちと言ったら、やっぱり商船の方が厳しい。商船の主体は西日本の方なので、東北の方ではあまりピンと来ないですけど、向こうの方ではやっぱり相当な危機感を持っていますね。

漁船の方はこの4月に気仙沼地区でプロジェクトの近海まぐろの3年事業が完了したので、何社かやめたんですね。その分の船員さんが他の船に吸収されているという部分があるので、漁船については何かうまいクッションといいますか、吸収もとがあったので、人手不足感が、商船から見ればちょっといいのかなといった感じだと思います。

【長谷部部会長】

ということでもよろしいですか。何か積極説が、よろしいですか。（「いやいや」の声あり）

若手の卒業生の方が船員関係で増えているという傾向がその大きな労働力の需給環境の中にどういう影響を与えているのかというのがよく分からないので、あまりないという話ですね、今の説明だと。

【鈴木船員労政課長】

どちらにしても、若手の船員さんが足りないというのははっきりしているので、水産高校なり、海技教育機構の学校から新しい船員さんを送り出していないと、事態はどんどん深刻になっていくのははっきりしている。

【長谷部部会長】

海員組合の方と学校の方でうまくそこら辺協力していただいて、供給が将来にわたって安定するようにどうぞよろしくお願いいたします。ということで括弧もい

い話ですか。

よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

どうもありがとうございます。

では、ご了承いただいたということで、次の議題、議事次第の（２）の方に入りたいと思います。

（２）その他

【長谷部部会長】

添付資料の残りの部分ですね、事務局の方からご説明をお願いいたします。

〔鈴木船員労政課長より資料８～１０に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ありがとうございます。官報公示の件と、「めざせ！海技者セミナー in 仙台」の広報、それから予算の話の３件ですね。

何かご質問、ご意見があれば。

この資料９ですけれども、在学中の方の年齢が必ずしも若い方に限らないということなんですね。

【鈴木船員労政課長】

今回、宮古の海技短大の１年生の方々に来てもらったんですけど、３０歳過ぎの方、４０歳過ぎの方も若干おられました。

【船津公益委員】

今１年生に、４４歳という人がいます。

【鈴木船員労政課長】

はい。あと三十何歳という方もおられます。

【長谷部部会長】

船に乗る時は、そういうことは可能なんですね。技術の習得という点で…。

【船津公益委員】

そうですね、やっぱり船社は年齢構成もありますので、会社側から見たら若い船員が欲しいというところはあるんですけども、今の状況では就職は可能です。

求人倍率が高いですし、かえって在学中は、こういう者は社会人経験者で、転職といえますか１回職業を経験した者なんですけど、もう年齢からして後がない状態なので、本当に一生懸命勉強します。

その者たちが、ストレートで高校から入ってきた者たちを引っ張って行って勉強します、ものすごく。

うちは２年間のうち９ヶ月間の乗船実習で、学校にいるのは１年３ヶ月なんですけども、そのうち国家試験受けるタイミングというのは少ないんです。後がない状態で勉強しますので、みんなを引っ張っていくというか、クラス全体としては非常にいい働きはしてくれます。

【鈴木船員労政課長】

セミナーの時も何かすごく熱心に、１人で４ヶ所とか５ヶ所、ブースを回って色々話を聞かれていますね。最初は一般の方かなと思って見ていましたら学生だったというのはありました。

【船津公益委員】

因みに、セミナーに行ったのは1年生なんですけども、この4月に入学して、もう7月の国家試験、3級の筆記を取った者もおりますので、頑張ります。

【長谷部部会長】

船に乗る技術というのは、大丈夫なんですか。若くなくても…。

【船津公益委員】

まだ44、大丈夫です。70を超えた船員さんもいっぱいいますから…。

【長谷部部会長】

分かりました。普通の大学では、たくさん見られることなんですけど、初めてだったものですから、ありがとうございます。勉強になりました。

【湯村使用者委員】

このセミナーに関連して、うちも参加させてもらって、後で報告聞いたんですけども、うちでこれを担当したのが、この間まで船長をやっていた者を行かせたんですけど、うちの船はセメント船なんですけど、具体的な仕事内容を説明したんです。

より具体的に説明すると、「ああ、セメント船って、そういう船なんですか。」、例えば「タンカー船はそういう業務なんですか。」とか、ものすごい興味を示してくれて、「ああ、セメント船もいいですね。」というような話をしてもらったということで、船員不足、船員不足と、その解消のためには色々な船種ありますが、自動車専用船もあれば、色々な船種、石灰石専用船とか本当にたくさんあるんですけど、その船なりのやっぱり仕事ってあるんですよ。それをより具体的に説明していくことで、大勢の学生さんに目を向けてもらえるんじゃないかというように今回の報告を聞いて感じたんですけども…。

【長谷部部会長】

ある程度年がいても、30を超えても新たに参入できるんですね。その時は現場で受け入れてくれる。

【湯村使用者委員】

そうですね。例えば、やっぱりきついのがありますよね。体力使うような船もあれば、もう40代でも50代でも十分船乗りとして務まるという船種もあるでしょうし…。

【長谷部部会長】

人として、労働力として欲しいという方からの評価は分かるんですが、実際に雇ってみたら年を取っている人はなかなか失敗ばかりしているとか、技術が、運転が下手だとか、そういうことがあって困るんじゃないかなという気持ちがあったものですから、ちょっと偏見だったですね。分かりました。ありがとうございます。

【高橋（雅）労働者委員】

船が大きくなればなるほど人数いますから、ある程度カバーし合いながらできるんですが、やはり船が小さくなると、その1人がそれなりの範囲を持ちますから、それだけ経験がないとやっていけないということだと思いますけども…。

【長谷部部会長】

ありがとうございました。勉強させていただきました。

他に何かご意見としてもっとございますか、高橋委員。

【高橋（雅）労働者委員】

最賃に関してなんですけども、全国の内航関係の方で、多分改定幅、目処というかそういうの立ったと思うんですけど、今年1,800円ほど改正になるみたいなんです。

それで、去年の資料を見ますと、内航船に関しては東北と北海道が全国から比べると低い数字で決まったんですけども、やはり人は賃金の高い方に流れますので、その辺は、なおさら東北という震災の影響もありますけど、できるだけ同じ水準に近づけることによって、東北の方にも求職の方が来るということになりますので…、あとやはり、全国的な生活をする上での賃金レベルですので、全国的な平均に持っていくような方向で、今年はお願ひしたいと思っております。よろしくお願ひします。

【長谷部部会長】

それは始まってからのお話し、予備的な話、情報として承りました。

よろしいでしょうか。

予算内容については、我々が色々言ってもしようがないというところがあります。こんなお金使っているのかということもあるみたいですけども、はい。

それでは、ご了解いただいたということで、他に無ければ情報提供に入りたいと思います。

労働者委員の方からいかがでしょうか、正路委員。

【正路労働者委員】

前回の部会でお話ししたようにFOCキャンペーン、便宜置籍船ですけども、9月15～17日までの3日間、東北の仙台、塩釜、石巻港、また秋田港でもって、3日間で12隻を査察いたしました。

船員の未払い賃金とかというものはなく、ちょっとホーサーが傷んでいる部分だとか、ラットガードがちゃんと、マウスガードというか、それがなされていなかったものにつて指摘をしたというようになっております。特に問題はなかったです。以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。他に何かありますか。

【高橋（雅）労働者委員】

私の方から、11月の10、11、12日と、新潟の方で全日本海員組合の全国大会があります。

今年は中間ということで、昨年度の活動方針を補強する大会というようになっております。会場は朱鷺メッセという会場です。

あともう一点、よろしいでしょうか。

気仙沼の会社で漁業取締業務を行っている会社なんですけども、1隻船舶を持っています、乗組員が15名なんですけど、この会社との今年度の労働協約の改定が滞りまして、8月17日に宮城県労働委員会の方にあっせん申請いたしました。

それで、今月の30日、第1回目のあっせんが持たれるという状況です。

【長谷部部会長】

それは、こちらには関係してきますよね。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。県の方の業務になるので、県の労働委員会ですかね。

【高橋（雅）労働者委員】

はい、そうです。

【鈴木船員労政課長】

そちらの方の話で、中身については…。

【高橋（雅）労働者委員】

中身については、ちょっと長くなるんですけども、気仙沼の同業他社が、ほか3社ありまして、他の3社は、大体労働条件は統一というか同じような労働条件なんですけども、ここだけ、会社設立当初から高い水準だったんですが、去年から、同業他社3社と同じような労働条件にしてほしいという会社の方から申し入れあったんですけど、去年は何も改定せず有効期間だけで終わったんです。

今年に関しては、もう同業他社と同じくしてほしいと。その中で、去年は他の3社に関しては60歳以降の経験加給を、陸上でいう定昇の部分をストップしたんですけど、今回の当社1社に関しては、そのまま継続されていたと。

それで、今年どうしても同業他社と同じように定昇の部分をストップしてほしいということでもめて、うちの方は、全部要求を取り下げますから妥結しましょうというようなところまで行ったんですが、会社の方が合意しないとのことから、あっせん申請したという状況です。

【長谷部部会長】

これはお聞きするだけでよろしいですね。

【鈴木船員労政課長】

そうですね。労働側としては、やっぱり労働条件の切り下げということなので、それをあっせん申請によって、県の方に間に立ってもらうとなるといったところですね。

【長谷部部会長】

はい、ありがとうございます。

それでは、他にございますか。労働側、よろしいですか。

では、使用者側いかがでしょうか、湯村委員。

【湯村使用者委員】

内航から主要オペレーター60社の7月の輸送実績が発表されましたので、それをちょっと発表させていただきます。

今年は全般的に台風の影響で輸送は大分停滞しました。

貨物船は、鋼材、鉄鋼の在庫調整や自動車販売不振で、全体からいきますと前年同月比で5%の減少、これは9ヶ月連続の減少になります。

費目別で見えますと、鉄鋼が11%減、自動車も消費税の影響や軽自動車の販売不振ということもあって9%の減、これは13ヶ月連続だそうです。原料関係も1%減、セメントも7%減、石炭・コークス等の燃料も3%減、紙・パルプは18%の減少だそうです。

全体としては、東日本大震災の復旧・復興需要がまだまだあると思うんですけども、それとオリンピック関連の需要ですね、そういったものもあると思うし、大いに期待はしているところなんですけど、なかなかその需要の兆しが見えてこないというのが現状で、先が読めないというような状況が続いています。

あと、船員関連では、先ほど有効求人倍率の話がありましたけれども、中国運輸局管内では、内航船については有効求人倍率が4.8倍位なんだそうです。四国につきましても、4.2倍位と大変な船員の不足状況が今も続いているということだそうです。

その中で、以前も話題に、この会の話題に上がりましたが、民間完結型の6級海技士の機関の短期養成課程なんですけど、それに応募が39名あったということです。

年齢構成が18歳から53歳までと幅広い世代の人が集まって、まずまずの成果が出たというような判断がされているものです。

就業拡大、就業ルートの拡大策としては、まずまずのスタートを切ったのではないかと考えております。

【長谷部部会長】

船員不足で大変だという問題と、業界が業績低迷しているということは、どのように受けとめたらいいんですか。全体が見えていないものですから…。

【湯村使用者委員】

船は簡単に手に入れたり手放したりできるものじゃありませんから、収入が滞っても、船はやっぱり運航できるように常に人員確保して準備しておかないといけない訳ですよ。

財政面なり、今非常に厳しい状況にありますけど、そういう中でも、船員は確保していかなければ将来がないというような…。

【長谷部部会長】

西日本中心だということで、東北管内では、あまりそういう理屈で動かないかもしれないかもしれませんが、分かりました。ありがとうございます。

佐藤委員、何かありますか。

【佐藤使用者委員】

いえ、ないです。

【長谷部部会長】

それでは、よろしいでしょうか。色々なことが情報として入ってまいります。

それでは、時間にもなりましたので、本日の議事は終了とさせていただきますと思います。

次回の船員部会は10月23日の金曜日の15時30分からとなります。会場はここ4階会議室で行います。

◎閉 会